

プロジェクト・ワイルド研修の一例



プロジェクト・ワイルドとは

約 40 年前に米国で開発がはじまり、以来、全米で 5,300 万人以上の子どもたちがワークショップに参加。米国で最も広く使われている環境教育プログラムです。

身近な生きものを通じて環境を学び、人間が、野生動物と共存し環境によい影響を与えることができるようになることを目的としています。

- ◆その評価は非常に高く、1999 年に米国の指導者 1,330 人を対象にして行った調査では、プロジェクト・ワイルドを実施した結果、95%の生徒が野生生物や環境に配慮した行動をとれるようになった報告があります。
 - ◆幼児から大人までを対象にした 150 を超えるアクティビティー（活動）があり、さまざまな学習シーンで使えます。
 - ◆1 日の養成会に参加すると、これらのアクティビティーを実施する「プロジェクト・ワイルドエドゥケーター（一般指導者）」になることができます。
 - ◆環境ボランティア養成講座や環境関係施設のスタッフ研修に最適です。
 - ◆環境教育の資格取得としてだけでなく、企業の職員研修でも活用されています。環境教育について学ぶことに加え、合意形成を図るグループワークを行うトレーニングなど様々な要素が盛り込まれています。
- ★詳しくはプロジェクト・ワイルド公式 Web サイトをごらんください。（<http://www.projectwild.jp/>）

体験者の声

- ◆座学よりも体験学習時間が多く、とても楽しく学ぶことができた。
- ◆参加者同士の交流を深めることができた。
- ◆グループワークで考え、発表するという流れが今後に役立てることができそう。
- ◆環境問題について今まで以上に深く考える機会になった。



研修の一例：

～プロジェクト・ワイルドエデュケーター（一般指導者）養成会の実施例～

9：00 開始

- ・養成会の目的を確認する時間
- ・頭の心のウォーミングアップ

9：30 プロジェクト・ワイルドのアクティビティ体験

☆アクティビティ例『瞬間冷凍動物』

キツネとウサギになって鬼ごっこします。活動を通じて、捕食者と獲物の関係や適応などを学びます。

☆アクティビティ例『魚を作ろう』

口の形、色、繁殖方法などが書かれたカードに従い、想像上の魚の絵を描くことを通して、魚の形が環境に適応して変化していることを学びます。

※実施するアクティビティは、参加者層や人数、会場にあわせて適切なモノを選択します。

12：00 昼食

13：00 プロジェクト・ワイルドのアクティビティ体験

☆アクティビティ例『みんなのトンボ池』

トンボ池のまわりに新しい町を作るロールプレイを通じて、人間が環境に与える影響とその影響を最小限に抑えるために何をすべきかを考えます。

※実施するアクティビティは、参加者層や人数、会場にあわせて適切なモノを選択します。

13：30 小講義「プロジェクト・ワイルドとは」「テキストの使い方」

14：00 指導実習：テキストを読み込み、アクティビティを実施できるようにするための時間

☆4～5人のグループで1つのアクティビティを実施するための準備時間

15：00 実演実習：参加者同士でアクティビティの相互実施

17：00 まとめ、終了

上記プログラムは一例です。

ご要望やロケーション、対象者にあわせたさまざまなプログラムデザインが可能です。

お気軽にご相談ください。

